

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	令和元年8月7日
【四半期会計期間】	第42期第1四半期（自 平成31年4月1日 至 令和元年6月30日）
【会社名】	株式会社ハークスレイ
【英訳名】	HURXLEY CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長 青木 達也
【本店の所在の場所】	大阪市北区鶴野町3番10号
【電話番号】	06（6376）8088（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部部長 芝田 浩実
【最寄りの連絡場所】	大阪市北区鶴野町3番10号
【電話番号】	06（6376）8088（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部部長 芝田 浩実
【縦覧に供する場所】	株式会社ハークスレイ 東京本社 （東京都港区浜松町2丁目4番1号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） （注）上記の東京本社は、金融商品取引法に規定する縦覧場所ではありませんが、投資家の便宜を考慮して、縦覧に供する場所としております。

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第41期 第1四半期 連結累計期間	第42期 第1四半期 連結累計期間	第41期
会計期間	自平成30年4月1日 至平成30年6月30日	自平成31年4月1日 至令和元年6月30日	自平成30年4月1日 至平成31年3月31日
売上高 (百万円)	11,617	12,009	45,952
経常利益 (百万円)	322	351	1,304
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (百万円)	159	276	919
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	118	226	813
純資産額 (百万円)	19,866	20,462	20,402
総資産額 (百万円)	36,085	36,270	36,006
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	16.96	29.41	97.94
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	16.94	29.39	97.84
自己資本比率 (%)	55.0	56.4	56.6

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当社グループは、「食に対する安心、安全」へのこだわりをビジネスの中心として据え、多様化するお客様のニーズに応えるべく商品力の強化につながる新商品の開発と店舗のQSC（Quality、Service、Cleanliness）の向上により、当社サービスへの信頼感の獲得に取り組み、利益の向上に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高120億9百万円（前年同四半期比3.4%増）、営業利益2億69百万円（同17.8%増）、経常利益3億51百万円（同9.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益2億76百万円（同73.5%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### 持ち帰り弁当事業

持ち帰り弁当事業においては、地域の皆様の豊かな食生活に貢献する「わたしの街の台所」として、手作りによる家庭の温もり、まごころ、安心感をお届けする信頼の食を追求しております。

4月は天井シリーズとして、リーズナブルな「得天井」と具材が8品の「上天井」を発売いたしました。手作りのお弁当だから出来る、つくりたての天井を「ほおばる喜び」を伝えるテレビCMを放映しご好評をいただきました。5月には揚げたての手作りかきあげを冷たいおろしうどんで食べる「かきあげ梅おろしうどん」を発売いたしました。旬のしらすを使った「釜揚げしらす御膳」や「とり天しらす弁当」も発売し、お弁当を通じて季節感を演出いたしました。更なる満足度向上に繋げるべく6月より人気のミックスシリーズに「のり」「チキン南蛮」「唐揚」などほっかほっか亭の定番メニューを展開いたしました。一方、ほっかほっか亭ならではの炒め物と揚げ物のコンビメニューである「しょうが焼&とり天黒酢弁当」をお手頃価格で発売いたしました。ほっかポイントアプリでは会員限定の企画を毎月投下することで、会員数は順調に伸びてまいりました。

この結果、持ち帰り弁当事業は、売上高43億49百万円（前年同四半期比3.7%減）、営業利益2億80百万円（同7.4%減）となりました。

#### 店舗委託事業

店舗委託事業においては、テナントオーナーのニーズを的確に捉え、企業価値を向上するために、自社運営サイトである「店通（てんつう）」を通して店舗業界に対する当社ブランドの浸透と当社サービスへの信頼感の向上に取り組んでまいりました。また、三大都市圏を中心に優良物件を積極的に仕入れる一方、低採算店舗の解約等による物件稼働率の向上を図り、利益の向上に努めてまいりました。さらに、既存ビルから店舗ビルへのコンバージョンや新築物件のマスターリース等により、物件の資産価値の向上についても推進してまいりました。

この結果、店舗委託事業は、売上高64億72百万円（前年同四半期比4.1%増）、営業利益2億30百万円（同26.6%増）となりました。

#### 店舗管理事業

店舗管理事業においては、物件開発ビルオーナーのニーズを的確に捉え、資産価値を向上するための各種サービスを積極的に展開してまいりました。また、ビルの管理関連サービスに加え美容・医療のテナントオーナー等、従来の飲食業以外のテナントオーナー向けに物件のサブリースと業務コンサルティングによる収益機会の拡大に取り組まれました。保有物件としては、当四半期に商業ビルを1棟建設・稼働いたしました。

この結果、店舗管理事業は、売上高1億77百万円（前年同四半期比15.2%増）、営業利益89百万円（同3.7%増）となりました。

#### フレッシュベーカー事業

フレッシュベーカー事業においては、幅広いお客様の支持を獲得できるよう季節商品の開発及び、既存商品のブラッシュアップに注力いたしました。

この結果、フレッシュベーカー事業は、売上高3億25百万円（前年同四半期比2.3%減）、営業損失2百万円（前年同四半期は営業損失11百万円）となりました。

#### その他の事業

物流関連事業においては、ますます増進する合理化・効率化への要望に、最適な物流サービスで確実に応え、さらに顧客の潜在ニーズを引き出す営業活動により物流市場での優位性を確立してまいりました。また、製造部門では、ジャストインタイムを旗印に、徹底した衛生管理のもと、確固たるスキームと無駄のない工程で、信頼される製品の安定供給を維持し続けてまいりました。

この結果、その他の事業は、売上高 6 億84百万円（前年同四半期比71.6%増）、営業利益14百万円（同4.0%増）となりました。

財政状態の状況は、次のとおりであります。

当第 1 四半期連結会計期間末における総資産は362億70百万円となり、前連結会計年度末に比べ 2 億63百万円増加しました。これは主に建物及び構築物が増加したことによるものです。

負債合計は158億 8 百万円となり前連結会計年度末に比べ 2 億 3 百万円増加しました。これは主に未払金が増加したことによるものです。

純資産は204億62百万円となり前連結会計年度末に比べ60百万円増加しました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上、剰余金の配当及びその他有価証券評価差額金の減少によるものです。

#### ( 2 ) 経営方針・経営戦略等

当第 1 四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

#### ( 3 ) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第 1 四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### ( 4 ) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 3【経営上の重要な契約等】

当第 1 四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	33,000,000
計	33,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (令和元年6月30日)	提出日現在発行数(株) (令和元年8月7日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	11,025,032	11,025,032	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	11,025,032	11,025,032	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高 (百万円)
平成31年4月1日～ 令和元年6月30日	-	11,025,032	-	4,036	-	878

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成31年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

令和元年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,627,300 (相互保有株式) 普通株式 23,400	-	単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,358,300	93,583	同上
単元未満株式	普通株式 16,032	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	11,025,032	-	-
総株主の議決権	-	93,583	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,200株(議決権の数12個)含まれております。また、「単元未満株式」の欄には、自己株式35株が含まれております。

【自己株式等】

令和元年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株)ハークスレイ	大阪市北区鶴野町 3番10号	1,627,300	-	1,627,300	14.76
(相互保有株式) 株)ほっかほっかフーズ	高知県高知市旭駅 前町43-4	23,400	-	23,400	0.21
計	-	1,650,700	-	1,650,700	14.97

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成31年4月1日から令和元年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成31年4月1日から令和元年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、協立監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査法人は次のとおり交代しております。

第41期連結会計年度 EY新日本有限責任監査法人

第42期第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間 協立監査法人

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成31年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (令和元年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,556	6,515
受取手形及び売掛金	1,479	1,608
商品及び製品	658	683
原材料及び貯蔵品	104	95
その他	917	1,020
貸倒引当金	15	16
流動資産合計	9,701	9,906
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,148	5,415
機械装置及び運搬具(純額)	376	405
工具、器具及び備品(純額)	289	352
土地	10,942	10,942
リース資産(純額)	4	2
建設仮勘定	301	30
有形固定資産合計	17,062	17,149
無形固定資産		
借地権	458	466
のれん	2	0
その他	113	141
無形固定資産合計	574	607
投資その他の資産		
投資有価証券	2,038	1,989
長期貸付金	13	12
敷金及び保証金	5,639	5,639
繰延税金資産	605	619
長期未収入金	552	546
その他	396	383
貸倒引当金	577	582
投資その他の資産合計	8,669	8,607
固定資産合計	26,305	26,364
資産合計	36,006	36,270

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成31年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (令和元年6月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	2,056	2,031
短期借入金	716	704
1年内返済予定の長期借入金	885	882
未払金	935	1,065
未払法人税等	142	95
未払消費税等	58	104
賞与引当金	178	272
その他	1,783	1,906
<b>流動負債合計</b>	<b>6,755</b>	<b>7,062</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	3,897	3,684
長期預り保証金	4,195	4,234
退職給付に係る負債	32	33
資産除去債務	401	408
その他	322	384
<b>固定負債合計</b>	<b>8,849</b>	<b>8,745</b>
<b>負債合計</b>	<b>15,604</b>	<b>15,808</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	4,036	4,036
資本剰余金	3,980	3,978
利益剰余金	14,712	14,819
自己株式	2,297	2,292
<b>株主資本合計</b>	<b>20,431</b>	<b>20,542</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	37	87
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>37</b>	<b>87</b>
新株予約権	8	8
非支配株主持分	-	-
<b>純資産合計</b>	<b>20,402</b>	<b>20,462</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>36,006</b>	<b>36,270</b>

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成31年4月1日 至令和元年6月30日)
売上高	11,617	12,009
売上原価	9,064	9,421
売上総利益	2,552	2,588
販売費及び一般管理費	2,323	2,318
営業利益	228	269
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	15	13
受取賃貸料	44	43
業務委託契約解約益	36	35
持分法による投資利益	-	1
その他	43	26
営業外収益合計	141	120
営業外費用		
支払利息	6	5
賃貸費用	8	18
業務委託契約解約損	0	-
持分法による投資損失	22	-
その他	10	14
営業外費用合計	47	38
経常利益	322	351
特別利益		
受取補償金	34	14
その他	3	0
特別利益合計	37	14
特別損失		
固定資産除却損	17	11
減損損失	9	0
その他	2	-
特別損失合計	29	12
税金等調整前四半期純利益	330	353
法人税、住民税及び事業税	90	90
法人税等調整額	81	13
法人税等合計	171	77
四半期純利益	159	276
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	159	276

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成31年4月1日 至 令和元年6月30日)
四半期純利益	159	276
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	26	50
持分法適用会社に対する持分相当額	14	0
その他の包括利益合計	40	50
四半期包括利益	118	226
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	118	226
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成31年4月1日 至 令和元年6月30日)
減価償却費	186百万円	185百万円
のれんの償却額	2	2

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月20日 定時株主総会	普通株式	169	18	平成30年3月31日	平成30年6月21日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自 平成31年4月1日 至 令和元年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
令和元年6月19日 定時株主総会	普通株式	169	18	平成31年3月31日	令和元年6月20日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	持ち帰り 弁当事業	店舗委託 事業	店舗管理 事業	フレッシュ ペーカリー 事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	4,514	6,215	154	333	11,218	398	11,617	-	11,617
セグメント間の内部 売上高又は振替高	47	-	-	0	47	536	584	584	-
計	4,562	6,215	154	333	11,266	935	12,201	584	11,617
セグメント利益又は 損失( )	302	181	86	11	558	13	572	344	228

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額 344百万円には、セグメント間取引消去 5百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 338百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない親会社である当社管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成31年4月1日 至令和元年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	持ち帰り 弁当事業	店舗委託 事業	店舗管理 事業	フレッシュ ペーカリー 事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	4,349	6,472	177	325	11,324	684	12,009	-	12,009
セグメント間の内部 売上高又は振替高	45	-	-	0	45	503	549	549	-
計	4,394	6,472	177	326	11,370	1,188	12,558	549	12,009
セグメント利益又は 損失( )	280	230	89	2	597	14	611	342	269

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額 342百万円には、セグメント間取引消去0百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 342百万円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない親会社である当社管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

( 1株当たり情報 )

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成31年4月1日 至令和元年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	16円96銭	29円41銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	159	276
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	159	276
普通株式の期中平均株式数(千株)	9,388	9,391
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	16円94銭	29円39銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	11	7
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結 会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

( 重要な後発事象 )

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

令和元年8月6日

株式会社ハークスレイ

取締役会 御中

### 協立監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 作花 弘美 印

業務執行社員 公認会計士 公江 正典 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ハークスレイの平成31年4月1日から令和2年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成31年4月1日から令和元年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成31年4月1日から令和元年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ハークスレイ及び連結子会社の令和元年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### その他の事項

会社の平成31年3月31日をもって終了した前連結会計年度の第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して平成30年8月8日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して令和元年6月20日付けで無限定適正意見を表明している。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。